

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 151 2014. 10. 10

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学総合情報メディアセンターC館内

日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 080-9730-1311 FAX:058-293-3384

E-mail: jsei@gifu-u.ac.jp <http://jsei.jp/>

日本教育情報学会「第31回年会」開催 (予定)

担当校 : 茨城大学

開催日 : 2015年8月29日(土)・30日(日)

会場 : 水戸市内

※詳細は次号掲載予定

***** 第30回定時総会報告 *****

2014年8月9日(土)13:15から京都市立芸術大学講堂において、日本教育情報学会第30回定時総会が開催されました。

正会員432名のうち152名の出席があり(委任状による出席者86名を含む)、定款27条により総会は成立し、林徳治会長を議長として総会を開会しました。

【提案された議案】 (Newsletter No.150をご参照ください。)

第1号議案 学会定款改正の件

第2号議案 2013年度事業報告及び収支決算の件

第3号議案 2014年度事業計画及び予算案の件

第1号議案は、原案(Newsletter No.150参照)に対し、以下の修正を加えた案が提案され、審議の結果、承認されました。

原案 第13条 専門会員及び名誉会員は、機関誌に論文を投稿することができる。

2 一般会員及び学生会員は、専門会員の推薦によって論文を投稿することができる。

修正案 第13条 正会員及び名誉会員は、機関誌に論文を投稿することができる。ただし、一般会員及び学生会員は、専門会員の推薦によって論文を投稿することができる。

原 案 (会員資格の喪失) 第17条の2 の追加。

修正案・(会員資格の喪失) 第17条の2 の追加を取り消し、会員資格の喪失条項として、死亡、失踪
宣告、公共会員にあっては、その機関の解散、を追加。

(死亡、失踪宣告、公共会員にあっては、その機関の解散)

第18条の2 会員が死亡もしくは失踪宣告を受けたときは会員資格を失う。公共会員である機関
が解散したときは会員資格を失う。

第2号議案、第3号議案は原案通り承認されました。

総会終了後、日本教育情報学会学会賞の表彰式を行いました。

******* 2014年度日本教育情報学会 学会賞受賞者 *******

1. 奨励賞 (1件)

前年度の学会研究発表大会において発表された優れた研究および学会誌研究報告の中から
選考する。

日比 光治 (岐阜大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻)

【教室における児童生徒の学習活動の記録と活用

ータブレット PC を活用した座席表電子化の試みー】

(教育情報研究 第29巻第1号)

2. 論文賞 (1件)

前年度刊行の学会誌『教育情報研究』に掲載された論文のうちで特に優れたものに対して授
与する。

加藤尚吾 (東京女子大学)・加藤由樹 (相模女子大学)

【試験問題の提示に関する iPad と紙と PC の比較】

(教育情報研究 第29巻第3号・第4号合併号)

3. 特別賞 (該当なし)

******* 日本教育情報学会 第30回年会開催報告 *******

台風にもかかわらず、年会に参加して頂きました皆様にお礼申し上げます

第30回年会実行委員会委員長 横田 学

第30回年会は、『「今」にふさわしい学びの環境をつくる』をテーマに、平成26年8月9
日、10日の両日に、京都市立芸術大学を会場として開催される予定でしたが、10日未明か
ら台風11号が近畿地方に接近・直撃するという事態となり、残念ながら9日土曜日の一
日だけの開催となりました。なお、参加者は148名でした。

本年会は、従来の課題研究に替えて最初に3つのテーマ別セッションを開催致しました。
本郷健氏 (大妻女子大学) にコーディネータをお願い致しました「メディアからのアプロ
ーチ」のセッションでは、福原美三氏 (明治大学)、手嶋毅志氏 (NPO 法人 manavee)、山

本利一氏（埼玉大学）から、それぞれの立場で新たなメディアが導入される背景にある課題や問題点と、それらをどのようにメディアによって解決するのか、また解決する糸口として考えているのかという視点で実践を発表して頂き、それを受けて議論を深めました。

加藤直樹氏（岐阜大学）にコーディネータをお願い致しました「マネジメントからのアプローチ」のセッションでは、教師の育成、教師の発達・成長をどう捉えるかという視点で、横山隆光氏（岐阜県揖斐川小学校）からは、学校教育現場における学びの環境をデザインできる創造的な教師について、服部晃氏（岐阜女子大学）からは、教員の研修はどのような課題を持っているか、あるいはどう捉えられているか、南部昌敏氏（聖徳大学大学院）からは、大学の教育、教員養成における授業設計というのは一体どういうふうを考えていけばいいのかなどの提案・発表をして頂いた後、「今にふさわしい学びの環境をつくる」教師をどのように育てるのか、また、そのために学会は何ができるのか議論を深めました。

沖裕貴氏（立命館大学）にコーディネータをお願い致しました「方法論からのアプローチ」のセッションでは、神月紀輔氏（京都ノートルダム女子大学）からは、特別支援学校における電子黒板やタブレット型PCの導入に際して、井上史子氏（帝京大学）からは、大学の初年次教育の中で実施した反転学習について、藤本光司氏（芦屋大学）からは、アクティブ・ラーニングの学習成果をどのように測定するかなど、具体的な事例を通した「方法論」についての提起が行われ議論を深めました。

午後の基調講演では、林徳治（立命館大学）新会長が「伝承と協働活動を融合したハイブリッドな学会をめざして」と題し、故木田宏初代会長のオーラルヒストリーのビデオも交え、学会の活動目標として4項目を挙げ、今後の本学会の在り方について提起されました。

引き続き、大和座狂言事務所の皆さんによる狂言「柿山伏」の上演とワークショップが行われました。柿泥棒の山伏と柿の木の持ち主とのユーモラスな掛け合いを楽しんだ後、会場からワークショップの参加者を募ったところ、4名の方が積極的に舞台上上がって頂き、狂言の稽古（伝統的な文化の伝承）を実際に体験して頂き、舞台と会場が一体になってさらに盛り上がる事ができました。

その後のシンポジウム『「今」にふさわしい環境をつくる』では、午前中の3名のコーディネータに林会長さらに山田師久氏（大和座狂言事務所）を加え、各セッションの討議内容の報告をもとに、会場の皆さんからも活発なご発言を頂き、年会テーマのさらなる深化を試みました。



林会長の基調講演



狂言の上演とワークショップ



なお、年会ホームページでお知らせ致しましたように、10日に予定されておりました研究発表につきましては、学会運営委員会にて協議した結果、「論文集への掲載をもって発表したと見なす」扱いにいたしました。

最後になりましたが、台風の接近により雨風の強まる中でのご参集や2日目の中止のご連絡がうまく伝わらず10日早朝から会場に来られた方など、不快な思いをされた多くの方にお詫び申し上げます。また、そ

のような状況にもかかわらず、熱心な討議を深めるとともに総会、ワークショップ、シンポジウム、さらに懇親会に積極的に参加して頂きました皆様に心より御礼申し上げます。

******* お知らせ *******

◆年会費納入のお願い

【2014年度】年会費および【過年度年会費】について、まだ納入がお済みでない方は、至急お手続きをお願いいたします。

なお、「払込取扱票」を紛失された方は下記宛に振り込みをお願いします。

会費振込先

郵便振替口座：00840-5-133924

加入者名：日本教育情報学会

会員氏名・会員種別・会員番号は必ずご記入ください。

お支払いいただいた際の振込金受領書は大切に保管してください。会費お支払い等についてご不明な点のある方は、事務局までお問い合わせください。

◆木田賞について

本会が運営に協力している木田賞の本年度受賞者を紹介いたします。

受賞者 後藤 忠彦氏（前日本教育情報学会 会長、岐阜女子大学長）

受賞理由 教育情報学の創成から現在までの学術分野発展への多大な寄与と、日本教育情報学会会長としての研究推進と展開への主導的・先導的役割

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

岐阜大学総合情報メディアセンターC館内

TEL: 080-9730-1311 FAX: 058-293-3384

E-mail: jsei@gifu-u.ac.jp <http://jsei.jp/>